

002 弥生文化と小国の分立①②

●弥生文化

- 01 弥生文化の特色は、石器に加えて〔**金属器**〕の使用が始まったこと、〔**水稲** 稲作〕の開始、〔**弥生** 土器〕の使用の3つである。
- 02 北海道では独自の〔**縄縄文** 文化〕が、沖縄では〔**貝塚(南島)** 文化〕が栄えていた。
- 03 東京都の弥生町遺跡〔**向ヶ丘** 貝塚〕で発見された土器がもとで、〔**弥生** 土器〕と命名された。
- 04 金属器のうち、〔**青銅器**〕は銅鐸、銅剣、銅矛など祭器として使われ、〔**鉄器**〕は鉄製工具や武器などの実用器として用いられた。この2つはほぼ同時に日本に伝わった。
- 05 水稲稲作には、弥生時代前期は、種を直接蒔く〔**直播**き〕で、弥生時代中・後期からは、〔**田植**え〕が始まった。
- 06 水田には、低湿地に営まれ、生産性の低い〔**湿田**〕と、灌漑・排水を繰り返すことで生産性が高くなる〔**乾田**〕とがあった。
- 07 農具は〔**木** 製〕が主で、後には刃先が鉄製の農具も現れた。
- 08 収穫には磨製石器の〔**石包丁**〕が用いられたが、やがて**鉄鎌**に代わった。脱穀は主に〔**木臼**〕・〔**竪杵**〕が用いられた。
- 09 本格的な水田や貯蔵用建築の〔**高床倉庫**〕の存在は、1943年に静岡県で発掘が始まった〔**登呂** 遺跡〕で確認された。
- 10 弥生時代には戦争もはじまったので、防御を重視した〔**環濠集落**〕が発達した。佐賀県にある〔**吉野ヶ里** 遺跡〕や、奈良県の〔**唐古・鍵** 遺跡〕が最大級である。また、不便な山の上につくられた逃げ城的な性格と考えられる〔**高地性集落**〕も瀬戸内海中心にみられる。その代表的な遺跡は香川県の〔**紫雲出山** 遺跡〕である。

01 九州北部では、朝鮮半島と共通する〔**支石墓**〕や、2つの甕を棺に利用した〔**甕棺墓**〕が、〔**近畿** 地方〕では**方形周溝墓**が広くいとなまれた。

02 弥生時代の一般的な埋葬法は、縄文時代屈葬に変わって〔**伸展葬**〕が一般的となった。

●小国の分立

03 中国の正史〔**漢書**〕**地理志**〕によれば、紀元前後の日本列島は**100**余りの国に分かれていて、定期的に〔**楽浪** 郡〕に使者を送っていたという。

04〔**後漢書**〕**東夷伝**〕によれば、57年、倭の〔**奴国**〕の王が朝貢の使者を送り、〔**光武帝**〕から印綬を与えられたという。

05 この金印は、江戸時代に〔**志賀島**〕で発見された。

06 紀元107年には、倭王が〔**生口**〕160人を献上したことが記されている。

07〔**魏志**〕**倭人伝**〕によれば、〔**邪馬台国**〕の女王**卑弥呼**を盟主とする〔**30** か国余り〕の**小国連合**が成立していた。

卑弥呼は〔**鬼道** (呪術)〕を背景に人々を統率したが、実際の政治は男弟に任せていたという。

08〔**239**〕年、卑弥呼は〔**帯方** 郡〕を經由して魏の皇帝に使者を送り、

〔**親魏倭王**〕の称号を与えられた。

09 邪馬台国論争とは、〔**近畿** 説〕と〔**九州** 説〕があり、〔**近畿** 説〕を取るならば、3世紀前半には日本に統一国家が生まれていたことになる。

10 卑弥呼が没し、男王が立つと小国連合は乱れた。そこで卑弥呼の一族の少女である〔**壹与(臺与)**〕が擁立されると、国はふたたび治まったという。この女王は266年、中国の王朝の〔**魏**〕に使者を

002 弥生文化と小国の分立①②

送った。